

# 追跡レポート

—あの事業は今?—

## 「伝統工芸の村」を検証

「伝統工芸の村」は、町の歴史文化遺産や美しい農村景観を後世に残していこうと整備された。昭和60年に「深山和紙振興研究センター」が建設され、その後個人が建てた「深山工房」を譲り受けた。「のどか村」は平成13年に建設した。この3施設は、深山区が指定管理者となり運営している。毎年秋には、鮎まつりと連携しての「しらたか工芸体験まつり」を開催し、好評を得ている。

### 【取り組み状況】



深山工房



深山和紙振興研究センター

町の観光3拠点のひとつとして「伝統工芸の村」が整備された。



深山和紙は風雨に強く、次第に白さと強靭さを増す性質。



和紙すき体験のほか、和紙人形やブローチ、卒業証書など、新たな利用拡大がはかられている。



昭和36年に窯跡が発見された深山焼。花瓶や茶碗などのほか、さくらんぼの焼き物も作成。



昭和58年に登り窯を作成。東日本大震災で倒壊したため、平成25年に復活させた。



人気がある、陶芸体験や干支の置物。



のどか村

### 課題

施設については、深山区が指定管理者となっている。「深山和紙振興研究センター」には町から管理料が出るが、「深山工房」と「のどか村」には、町からはない。



- ・ 体験型観光拠点としての役割と伝統工芸の後継者の育成について、さらなる町の支援を！
- ・ 管理運営は利用料金をもってあてる状況では地区の負担になり、さらなる努力に頼らざるを得ないが限界ではないか？
- ・ 深山観音堂を含めた形での3施設の連携による集客と町外へのPRは、町主導での取り組みを！



深山観音（観音寺観音堂）